

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 18042

建築物名称	(仮称)EXC宮前平計画新築工事
建築主	新日本建設株式会社 代表取締役 金綱 一男
建築物の所在地	川崎市宮前区宮前平2丁目4-1、4-10、4-21、4-22、4-23
設計者氏名、建築士事務所名	森山 隆 新日本建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,043.22m <sup>2</sup>
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	平成32年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.1.2)

## 評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観		18042
建物名称	(仮称)EXC宮前平計画 新築工事		階数	地上5F	
建設地	神奈川県川崎市宮前区宮前平2丁目4-1,4-10,4-21,4-22,4-23		構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域		平均居住人員	120 人	
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年1月 予定		評価の実施日	2018年11月30日	
敷地面積	1,214 m <sup>2</sup>		作成者	新日本建設株式会社一級建築士事務所	
建築面積	832 m <sup>2</sup>		確認日	2018年11月30日	
延床面積	3,043 m <sup>2</sup>		確認者	新日本建設株式会社一級建築士事務所	

外観パース等  
パースの公表を希望される場合は  
図を貼り付けてください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たす 植栽により良好な景観を形成している 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が30%以上	2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	住宅性能表示基準 断熱等性能等級3 カーテン、庇にて昼光制御	3.4/5.5	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たす 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が30%以上	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示基準 断熱等性能等級3 潜熱回収型給湯器を各住戸に設置。LED照明器具を採用し省エネに配慮。	3.9/5.0	3.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	壁下地はLGS下地を採用	2.6/4.7	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	住宅性能表示基準 劣化対策等級3	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	壁下地はLGS下地を採用	2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準を満たす 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が30%以上	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示基準 断熱等性能等級3 潜熱回収型給湯器を各住戸に設置。LED照明器具を採用し省エネに配慮。	3.9/5.0	3.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示基準 劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示基準 断熱等性能等級3 潜熱回収型給湯器を各住戸に設置。LED照明器具を採用し省エネに配慮。	3.9/5.0	3.9

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目	重点項目				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体			
	G	W	R	H			評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.2</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>
2.1 室温制御						<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温						<b>3.0</b>	0.63	-	-	
2 外皮性能			W			<b>1.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.0</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.2</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
1 昼光率					専用部昼光率2%以上	<b>1.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口						<b>-</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備			W			<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>1.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
1 昼光制御			W		カーテン、庇により昼光制御	<b>1.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質					共用部及び専用部でF★★★★を全面的に採用	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						<b>-</b>	-	<b>-</b>	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	-	
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	-	<b>-</b>	-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.1
<b>1 機能性</b>									
					2.1	0.40	3.8	1.00	3.4
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>									
					3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>									
					1.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3	内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>									
					2.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計				2.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									
					2.9	0.30	-	-	2.9
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>									
					3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>									
					3.2	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R			5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R			3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>									
					2.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>									
					3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
<b>3.1 空間のゆとり</b>									
					-	-	3.0	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>									
					3.0	-	3.0	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>									
					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>									
					—	0.30	-	-	2.4
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W		H		
					1.0	0.30	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G					
					3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>									
					3.0	0.30	-	-	3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>									
					3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W		H		
					3.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H		3.0	0.20	-	3.0
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] = 0.86	4.8	0.50	-	4.8
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	
4.1 モニタリング	W		H		3.0	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	-	-	
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	2.7
1 水資源保護	W	R			3.0	0.20	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.6	0.60	-	2.6
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		-	1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		壁の下地はLGS(スタッド組)工法を採用	4.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	
1 消火剤	W				-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	1.00	-	
3 冷媒	W				-	-	-	
LR3 数地外環境					-	0.30	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	W			排出率参照値の70%を達成	4.2	0.33	-	4.2
2 地域環境への配慮					2.8	0.33	-	2.8
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H		3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			R		1.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	
2 振動					-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				「光害対策ガイドライン」チェックリストの一部を満たす。屋外広告照明なし。	4.0	0.70	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	